

令和5年度

授業改善プラン

- I 「目黒区学力調査」の概要
- II 令和4年度「授業改善プラン」の検証
- III 「目黒区学力調査」等に基づく授業改善プラン
 - ・本校の授業改善に向けた方策（学校全体）
 - ・第1学年～第3学年

令和5年9月
目黒区立第十中学校

I 「目黒区学力調査」の概要

1 調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第2学年～第6学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。（原則として、特別支援学級に在籍する児童・生徒は対象としない）

2 調査の内容

(1) 調査の対象学年及び対象生徒数（本校）

	1 年	2 年	3 年
対象数	1 3 9 人	1 4 1 人	1 3 2 人
実施数	1 3 4 人	1 3 5 人	1 2 0 人
受検率	9 6 %	9 5 %	9 0 %

(2) 調査内容と実施教科

① 学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

② 生徒の学習に関する意識

1年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

2年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

3年 意識調査、国語、数学、社会、理科、英語

(3) 実施日

令和5年4月13日（木）

Ⅱ 令和４年度「授業改善プラン」の検証

(1) 成果

・昨年度の課題を踏まえた授業展開や解決のための手だてを着実に実施してきたことが成果となり、第３学年においては、社会科・数学科・理科においては、目黒区の達成率・平均正答率に対して同程度、国語科・英語科において平均正答率が目黒区の達成率・平均正答率を上回ることができた。特に英語科に関しては全国の達成率・平均正答率より２０パーセント近く、目黒区の達成率・平均正答率より８％近く上回ることができた。

(2) 課題

・第２学年の社会科は約１６％、理科は約１６％昨年度より平均正答率の低下がみられた。学習の定着度に２極化がみられる為、個別の声掛けや支援をさらに重視していくと共に少人数学習や個別学習の必要性がある。また、既習事項を活用し、社会的な見方・考え方を働かせるような学習課題を单元ごとに計画的に設定する必要がある。また、基礎的、基本的な知識の定着を図るため、授業ごとに前回学んだ内容の簡易的な確認や、定期的に小テストを実施するなどして知識の定着を図る。

Ⅲ 目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

本校の授業改善に向けた方策

- ・思考力、判断力、表現力等の育成のために、言語活動の充実を図る。また、ＩＣＴ機器を使って、より積極的に言語活動の充実に取り組んでいくために、ＩＣＴ研修やＧＩＧＡ支援員との連携する機会を増やしていく。
- ・全教科において、基礎的な学習の定着を図るとともに、カリキュラム・マネジメントに努める。
- ・数学科においては習熟度別指導、英語科においては少人数指導、さらに各授業における学習指導員を活用して、個に応じた指導を充実し学力の向上を図る。

授業改善プラン 第十中学校 国語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	領域 書くこと ○問題の意図や指定された条件に沿って自分の考えを明確に書く。	・单元ごとに、条件に従って考えたり問いの意図を考えたりして文章を書く活動の一つ以上取り入れる。 ・考えて書いた文章を生徒同士で読み合い、フィードバックを通して互いに高め合う活動を定期的に取り入れる。
第二学年	領域 話すこと・聞くこと ○話し合いの内容を聞き取る 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	・話し合い活動の中で、情報を正確に聞き取るためにメモを取りながら聞くことを習慣化させる。 ・話題に対して問いを立てながら聞く授業を、月に1回行う。 ・話を聞いて考えをまとめ、伝え合う授業を月に1回行う。
第三学年	領域 話すこと・聞くこと ○論理の展開に注意して聞き、自分の考えをまとめている	・話し合い活動に際して、要点をまとめやすくなるようメモを取りながら話を聞くことを意識付けする。 ・ディベートや、意見発表など自分の考えを述べる時間を授業の中に常に取り入れ、論理を意識して話す、聞く時間を増やす。

授業改善プラン 第十中学校 社会科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	領 域 天皇中心の国づくり ○知識・技能 遺跡や文化財，地図や年表などの資料で調べ，大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営の様子を理解し，天皇を中心とした政治が確立されたことを理解すること。	・知識の定着を図るため、課題を設定し、確認テストを実施する。 ・デジタルドリルを活用し、個別最適化された課題に取り組むことで着実なステップアップを図る。 ・この領域は、1年次の歴史的分野で取り組むため、小学校の既習事項と関連付けて授業づくりをし、復習の機会を設ける。
第二学年	領 域 世界各地の人々の生活と環境 ○思考・判断・表現 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。	・1年次の世界地理に関する学習を地理的分野のみならず、歴史的分野でも振り返り、活用する場面を設定する。 ・既習事項を活用し、社会的な見方・考え方を働かせるような学習課題を單元ごとに計画的に設定する。 ・世界と日本のつながりを多面的・多角的に捉え、生活と環境の因果関係を考察させる。
第三学年	領 域 明治時代 ○思考・判断・表現 明治初期の政府の特色について，様々な資料を読み取って情報を収集して考察し，その過程や結果を的確に表現すること。	・資料を読み取る際の着眼点や問題に合わせて表現する方法を学習する機会を設ける。 ・様々な資料を読み取る時間を設定したり、資料をもとに仮説を立て学習用情報端末等を活用して調査する時間を設けたりする。 ・習得した知識や技能を活用して、結論を自分の言葉でまとめたり、課題に対して議論したり解決したりする活動を設ける。

授業改善プラン 目黒区立第十中学校 数学科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	領 域 【正の数と負の数】 ○観点：知識・技能 ○課題：正の数・負の数の解き方にあたり、より適切な解法はあるのか解決することが出来るようにする。	・どのような法則を用いて、それをどのように用いたことで問題解決に至ったかを振り返る場面を設定し、定着を図る。 ・授業の演習の後、その授業の振り返りとして、数学的な活動の時間（正の数・負の数の計算を用いたり、文字の式の計算を用いたりして、様々な課題に最も適した解法を身につける学習）を設定し、意見交換を行い、単元ごとに振り返りシートに書くことで、学びの定着を図る。
第二学年	領 域 【領域：連立方程式】 ○観点：知識・技能 ○課題：代入法、加減法を用いた、連立方程式の解き方を身につけることが出来るようにする。	・フォローアップワークシートとデジタルドリル（キュービナ）を活用し、基本的な学習内容の復習と応用内容の確認をする。授業でも復習する時間を設定する。 ・問題解決の対象を明らかにし、数学的な活動の時間（等式の性質を用いて係数を最小公倍数に揃える、式を代入して解く、式を変形して解く、かっこのある連立方程式を解く、係数に分数を含む連立方程式を解く、$A=B=C$の形の方程式を解くなど様々な課題に最も適した解法を身につける学習）において今までの既習事項をどのように用いるかを、意見交換を行う。
第三学年	領 域 【領域：式の展開と因数分解】 ○知識・技能 式の計算で展開、因数分解の解き方を正確に身に着ける。	・授業の中で、小テストを実施し、理解度を確認してから次の分野に進む。理解できていないところは、適切に復習する時間を設ける。デジタルドリルを活用し、個々の能力アップを図る。 ・どのような公式を用いて、それをどのように用いたことで問題解決に至ったかを振り返る場面を設定し、定着を図る。意見交換の時間を設けたり、振り返りシートに記入させたりして、アウトプットをする。

授業改善プラン 目黒区立第十中学校 理科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	領 域 生命・地球 ○観点：知識・技能 ○単元：植物のからだのつくりとはたらき ○課題：植物がはき出した空気には水蒸気が含まれることへの知識に改善の余地が見られる。	・蒸散という語句の意味をモデルを使って説明し、イメージを持って理解できるようにする。 ・はき出した空気の中に水蒸気が含まれることが証明できる実験を行う。 ・副教材を活用して理解を深める。 ・小テストを定期的に行い、知識の定着を図る。
第二学年	領 域 粒子（物質の状態変化） ○知識・技能 身のまわりの物質の性質や変化に着目しながら、状態変化や物質の融点・沸点に関する基本的な原理・原則を理解するとともに、それらに関する実験の基本的な技能が身に付いていること。	・基礎的、基本的な知識の定着を図るため、授業ごとに前回学んだ内容の簡易的な確認や、定期的に小テストを実施するなどして知識の定着を図る。 ・観察、実験を行う際には、活動中だけでなく、事前、事後において実験の操作やそれらを行う理由、注意点等の確認を、ワークシートなどを通して行う。
第三学年	領 域 粒子 ○観点：思考・判断・表現 ○単元：物質の成り立ち ○課題：化学反応の分解と状態変化との違いについての理解に改善の余地が見られる。	・化合と分解の違いをモデルを使って説明し、実験を通して理解する。 ・日常生活における分解と化合の例を探し、違いと共に日常生活と結びつける。 ・ある程度理解が深まった後にワークシートを活用して定着させる。

授業改善プラン 目黒区立第十中学校 英語科授業改善プラン

	課 題	解決のための手だて
第一学年	傾 域 書くこと ○相手が理解できるように文字を書いたり 語句や表現を書き写したりできる ・文法を正しい用法で用いている。 ・自分の伝えたいことなどを正確に書くことができる。	・新出単語を覚える際に、実際にその単語がどのように使われているかを例文で示す。 ・ALT と協力して、身につけさせたい文法に特にフォーカスした添削指導を行う。 ・ライティングなどアウトプットする機会を増やし、定着を図る。
第二学年	傾 域 思考・判断・表現 (読むこと・書くこと) ○長文の読み取り 長文を読み、その要点を捉える。 ○場面に応じて書く英作文 対話の流れに合った英文を相手に伝わるように書く。	・教科書の本文以外に、クラスのレベルにあった長文を用いて要点の読み取り練習をする。 ・教科書の内容に関連したライティングの機会を増やし、ALT の協力を得て対話の流れに応じたニュアンスを確認する。
第三学年	傾 域 思考・判断・表現（書くこと） ○場面に応じて英作文を書くこと ○3文以上の英作文の課題において、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝わるように書くこと	・自分の意見や感じたことを自らの言葉で表現できるように、ライティングのアウトプットの機会を設ける。副教材のライティング冊子を用いて、ライティング指導を行い、ALTにもニュアンス等を確認してもらう。 ・自分の力で文章を組み立てることに自信がついたら、最終的に書いた内容について発表をすることで、4技能を総合的にバランスよく向上させていく。